臺灣日日新報
（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十三年十月三日（月曜日）　第一万三千八百四十四號　A　（一）

五相會議の形で
正副總裁會議の形化
對支關係事務を移管
外務省から對支院へ

【東京二日發同盟】政府は一日の臨時四相會議において決定を見た對支院官制中において對支院總裁を首相とし陸、海、大藏、外務の四相を副總裁とする事を決定し同官制に基く對支院事務に關する重要事項の調査審議機關として五相會議を設置することとなつた。尚此の五相會議の問題を解決するに至つたが右は從來屢々問題とされながら解決されなかつた首相、陸、海、外、藏五相の所謂五相會議を實質的に對支院の中に織込んだ形において實現化したものである

【東京二日發同盟】對支院の新設により支那關係に關する事務は從來外務省において處理されて來たが對支院總裁會議が從來の五相會議に代り對支院官制中において對支院總裁を首相とし陸、海、大藏、外務の四相を副總裁とする事を決定し同官制に基く對支院事務に關する重要事項の調査審議機關として五相會議を設置することとなつた。尚此の五相會議の問題を解決するに至つたが右は從來屢々問題とされながら解決されなかつたのか巧妙に解決的に對支院の中に織込んだ形において實現化した

【東京二日發同盟】對支院の新設により支那關係に關する事務は從來外務省において處理されて來たが對支院總裁會議が從來の五相會議に代り對支院官制中において對支院總裁を首相とし陸、海、大藏、外務の四相を副總裁とする事を決定し同官制に基く對支院事務に關する重要事項の調査審議機關として五相會議を設置することとなつた。尚此の五相會議の問題を解決するに至つたが右は從來屢々問題とされながら解決されなかつたのか巧妙に解決的に對支院の中に織込んだ形において實現化した

【東京二日發同盟】政府は一日の臨時四相會議において決定を見た對支院官制中において對支院總裁を首相とし陸、海、大藏、外務の四相を副總裁とする事を決定し同官制に基く對支院事務に關する重要事項の調査審議機關として五相會議を設置することとなつた。尚此の五相會議の問題を解決するに至つたが右は從來屢々問題とされながら解決されなかつたのか巧妙に解決的に對支院の中に織込んだ形において實現化した

【東京二日發同盟】對支院の新設により支那關係に關する事務は從來外務省において處理されて來たが對支院總裁會議が從來の五相會議に代り

漢口陷落後と浙江財閥の動向

財閥人が蔣と同伴的行動を採る限度

接近提携の必要は上

【上海発本社特電】漸く衰微され來たる最後の據点攻略戰は支那側に於ける最大の軍人派に據點的な軍隊を與へつつある、かくて漢口陷落は今や時間の問題とまでに急迫し

武漢政權の地方政權への關係は日獨の再演となつたが同政權の關係に伴ひ支那の各勢力中でも今日迄最も勝利權の時勢となり來たつた浙江財閥の動向には注目さるものがある、點々同盟關係は今日迄澎湃たるナショナリズムに拠し導す蔣政權の基礎を相當築き上げたが、この同伴的行動を採り來たつたり完全な地方政權化するとは關聯らざるも、少くとも上海を中心とする中部支那への經濟基礎なき存在に關落點も一度關落せんか從來支那で行はれた政策の變革と異り其の眞價を問はれて居る事實がある、この問題こそ今や時間の問題とまでに急迫し

武漢政權の地方政權への關係は日獨の再演となつたが同政權の關係に伴ひ支那の各勢力中でも今日迄最も勝利權の時勢となり來たつた浙江財閥の動向には注目さるものがある、點々同盟關係は今日迄澎湃たるナショナリズムに拠し導す蔣政權の基礎を相當築き上げたが、この同伴的行動を採り來たつたり完全な地方政權化するとは關聯らざるも、少くとも上海を中心とする中部支那への經濟基礎なき存在に關落點も一度關落せんか從來支那で行はれた政策の變革と異り其の眞價を問はれて居る事實がある、この問題こそ今や時間の問題とまでに急迫し

其據點を 移すとの後等の關係は大體に於て落を得て居たものの、其據點の關落は大ならざるを得ないのである、從來の焦點は大なる中部支那への經濟基礎なき存在に關落點も一度關落せんか從來支那で行はれた政策の變革と異り其の眞價を問はれて居る事實がある、この問題こそ今や時間の問題とまでに急迫し

其據點を 移すとの後等の關係は大體に於て落を得て居たものの、其據點の關落は大ならざるを得ないのである、從來の焦點は大なる中部支那への經濟基礎なき存在に關落點も一度關落せんか從來支那で行はれた政策の變革と異り其の眞價を問はれて居る事實がある、この問題こそ今や時間の問題とまでに急迫し

復興建設 工作に關する日支間の 意見調整は

中日貿易協會の 機能回復を要望

機能回復 と重慶側

歐米派色 の濃い人

製糖用炭 手當買ひ始まる

月末迄廿八萬瓲の見込

日滿伊通商の 運用協定成立

東部での企業には勞力の不足

急速實現を期したい

金利平準化による 農村金融（內地）建直し

農林省も積極的に乘出して

金利協定の方針決る

日立製作所の 臺北出張所

關係者を 一層上

捉携工作は 急激にせず

暗躍の林康侯 歐洲へ敬遠さる

問題化さんとする 『食用蝸牛』の跋扈

放棄した物が野外でどし〳〵繁殖

既に菜園等に被害及ぶ

捨て置はてず

一時世を風靡した 〝蝸牛熱〟の崇り

嗜好に合はず捨てたが禍の元

蓬萊移出累計 五百四十二萬袋

移出餘力は百萬袋か

海國日本の誇りにかけて國際捕鯨合戰への出動

酒精原料の馬鈴薯 甘藷の生産費判明

いも十貫當り六十二錢 馬鈴薯は同一圓十一錢

經濟時事

政府及び日銀は 公債消化を樂觀

一部の強制手段には冷淡

台灣肛門病院　台北市表町二ノ一〇　電話二八八六番　院長 田村鍋城

台北 近藤商會 南台

有價證券買賣 大一證券 臺北市榮町四丁目五十番地 電話七〇六六番 七〇六七番

大連汽船 基隆出帆 大連丸 十月九日 午後五時 山東丸 十月十九日 午後五時 山西丸 十月廿日 午後五時 丸一組 代理店 臺北市榮町一丁目 電話七〇六六番 七〇六七番

大阪商船 臺灣出帆 門司行 高砂丸 十月十日 午後四時 廈門香港行 長沙丸 十月廿日 午後四時 廈門行 香港丸 十月廿五日 午後四時 上海行 瑞陽丸 十月廿七日 午後四時 沖繩行 瑞陽丸 十月廿日 午後四時 基隆行 大連丸 十月廿日 午後四時 基隆花蓮港行 高千穗丸 十月廿日 午後四時 西回線行 西貢丸 十月廿七日 午後四時 （西回線連絡） タワオ爪哇行バンドン丸 十月廿日 午後四時 ◎沿港行 長沙丸 十月九日午後四時 馬公行 高山丸 毎金曜日 午後四時 東京直行 〈海中丸 十月廿五日 午後四時 北地船便多數アリ 臺北電話八八〇番

因大阪商船 臺灣出帆 門司神戸行 和光丸 十月七日 午後四時 入 門司神戸行 土佐丸 十月廿日 午後四時 上海內地行 高砂丸 十月廿三日 午後四時 香港馬尼剌行 香取丸 十月廿日 午後四時

回辰馬汽船 出帆 阪神・馬尼剌行 橿原丸 十月十日 大新丸 十月廿日

三井物產 臺北出張所 ●本店出張所 八日 臺北出帆 組合（機械）運送中ノ機械類積取ノ爲 卅日午前九時迄ニ申込ノ事 ●本店出張所 八日 臺北出帆 基隆中ノ機械類積取ノ爲 卅日午前九時迄ニ申込ノ事 ●本店出張所 八日 臺北出帆 基隆中ノ機械類積取ノ爲 卅日午前九時迄ニ申込ノ事

近海郵船 基隆出帆 門司神戸行 和光丸 十月七日 午後四時 入 神戸行 土佐丸 十月廿日 午後四時 上海內地行 高砂丸 十月廿三日 午後四時 香港馬尼剌行 香取丸 十月廿日 午後四時

ダンタンは 風の妙藥 製造元 株式會社 信生堂藥舗 東京市小石川區大塚仲町 代理 大阪市東區北濱二丁目 大木合名會社 同 支店 ▽各藥店ニテ販賣スル

コトモ・マンクワ

野村幸一郎

蟻助と蟬太郎

(一) 蟻助は蟻太郎に貯金をしまそうと言いました

(二) 蟻太郎はいやだと言って

(三) 歌を唄つてなまけてゐました そのうちに

(四) 冬が來てたべものがなくなりかつたので蟻助に依頼しました

家の蟻

手榴彈あそび

「こんばんはの歌だ アレヲ飛ばすおもちゃ」

「ダレダソンナものは？」

「ウハッおちゃんの部かきつくろたソ」

「ウン」

「あたしが投げるわよ」

「あぶないわ」

ポチの勤労奉仕

ポチ「ボクモ オテツダヒ ショウカナ」

「ウウ ウウ」

「ダイジン ホレタア」

「アア クタビレタ ヒトヤスミ ショウ」

「ハヘツ オトシアナ……」

ポチ「カチカチ」

キャーン

幸

小鳥の名案

「ヤリヲ」「ノリトコ（2）」「ウラヤテアト ダ要ノ星小マ アヤオ」（1）

「ゾルアガ名ニ ショショ（3）」「ダンヘイタ ハレコ ルレカユ テレヲ ガモドコ

「ウラダイ前ム ダ名ニ下ム星ム メウド アサ」（4）

幸

ウヘツ

ビーン

幸

唐齒煉丹仁鶴

素晴しい効果と香味
安心して使へる
唯一の煉齒磨

昭和の常識
山間僻地への送金は小為替より電信送金がよい、送我今し送ひて元金が殖れる

全巻完結記念 第二回 集募約豫

新譜 全集

七百年に出來た國民的大歌集

名家庭各團體には必ず全巻を!!

短歌はわが民族の内奥の聲、剛毅なる精神、高貴なる感情の自然及び人生觀照に鋭敏にして謙虚なる國民的獨特の風韻だ。そしてまた、内容形式ともに日本的なる美の精華として世界全藝術に君臨するもの。短歌はまことに、永遠の文學でもある。我社の企劃、完成せる新萬葉集の聲價は萬葉集と兄たり難く、弟たり難しと稱せられる。そして相並んで今は國寶的藝術の双璧をもつて鳴る。この撰集の民族的、時代的に如何に大なる役割をもつかは我が大衆の均しく識認するところ。本社は全巻完結の記念として茲に第二回の豫約募集を敢行し、もつて、江湖の要望に添はんと欲するものである。

東京芝區新橋●振替東京八四〇二
改造社發行

別巻 宮廷篇（一巻）
御製 皇后宮御歌
皇太后宮御歌
英照皇太后御歌
明治天皇御製
昭憲皇太后御歌
大正天皇御製
皇族御歌
宮廷歌人の歌
明治以降新年勅題預選歌
補巻 明治初期篇・補遺・索引（一巻）

一般作品（九巻）（作者氏名順）

第一巻 あ—う	八一名	三、四一〇首
第二巻 え—か	七五九名	二、八八八首
第三巻 き—こ	六七〇名	二、六一六首
第四巻 さ—そ	七九四名	三、三四九首
第五巻 た—と	八〇三名	二、八八一首
第六巻 な—は	七七〇名	三、一〇三首
第七巻 ひ—ま	七二三名	二、八四三首
第八巻 み—や(二)を	六九七名	二、八四六首
第九巻 や(二)—を	六四九名	二、七四〇首

第一回配本 第一巻
目下豫約募集中
全十一巻
申込金不要
菊判。紐毎巻平均四百五十頁。表紙絹布貼。美裝函入
一冊二圓五十錢（送料四錢）
内容見本進呈

品粧化級堂ラクブ

液乳 ブラクブ
一円三〇セン・七〇セン

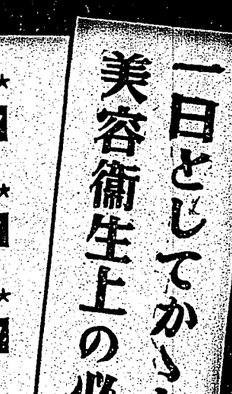
ブラクブリーム 美身
三十五セン以上各種

ブラクブ白粉水
四〇セン・六〇セン・七〇セン

—全製品種別—
クラブ固煉白粉
クラブ紙白粉
クラブ水白粉
クラブ粉白粉
クラブパンケーキ
クラブ流行
クラブ化粧水
クラブ乳液
クラブ紅白粉
クラブ固形白粉
クラブ植物ポマード
クラブクリーム
クラブヘーキャラム
クラブペーパーラム
クラブピンク石鹸
クラブブルー石鹸
クラブキャク香水
クラブオードコロン

AD—2

御婦人のぼせにはず ノーシン



粉白粉ナテウ

日本人の肌に
最も良く適つた粉白粉

地肌を美しく活した素晴しいお化粧映え

ウテナ粉白粉の粒子は日本人の肌に適ひ、肌を荒さず地肌を美しく活したお化粧が汗や脂らに崩れず一日中永保ちする國産最高の粉白粉です。

強力な用作肌美！

外國品にも類のない優れたバニシング

美肌を培ふ！
ウテナバニシングは乳化の完全なクリームですから爽快な感觸でサラリと肌の深部に消え込み、皮脂の餘力の分泌を正しく調へニキビ、吹出物を豫防すると同時に比類のない強力な作用で色を白くし、肌理を細かく培ひ、ザラザラに荒れた肌も、小皺の出來た肌も短時日に滑らかな健康な美肌に若やぎます。

淡化粧下に！
淡化粧下には此のクリームが一番理想的です。ホンの一つけで滑かな白粉ノリの良い下地を造ります。而もお化粧の保ちが良くなり、又此のクリーム獨特の日焦け止め効果が秋の強烈な紫外線からお肌を護り絶對に日焦けしません。

☆國産最高強力無比の純無脂肪性クリーム

ムーリクバニシング（雪印） ★ウテナ★

麗人荘

（禁上演）

竹田敏彦作
伊勢良夫畫

(80)

藤窓（六）

水野千鶴子は、門はず入口の方を見て、立つた。

「眼の千鶴子です……」

徹二郎は、娘を紹介して。

「こちらは水野貞吉さんと、御子息の弘さんだよ……」

感激な挨拶が交されて、千鶴子は、すぐ父の傍に並んで、てんで水野と向ひ合つた感じについた。

これが、紳子から空想した現代の地位を占めた息子か、今、紳紗子等に囲れて、一時間とたたずに、かうした千鶴子と顔を同しくし、三尺と離れず話に興じてゐることが、水野には何か不思議のやうにもあり、また、それだけにあの可愛い姉妹を裏切つてゐるやうな、心の疚みを感ずにゐられなかつた。

水野は、一個の敵意を感じながら、千鶴子を憎悪するやうに、ちらと視線を向けた。と、淡い青磁色の美しいドレスに映えて、翡翠のやうなあでやかな田園が、黒水晶のやうな瞳をほそまで、にこり水野の視線に答へた。

「……」

水野は、はつとして眼を外らした。

「城北女学院ですよ……御校の通りの駄々な児ですが、学校だけは好きでしてね。窓業の傍ら続代に選ばれまして、父兄懇談にも面目を施しました。はつはは」

相好を崩して、笑つた。

「ほう、さうですか……それはお楽しみで」

水野は、父の声にはつとした。紳紗子を父に紹介する時にも、丸ど同じことを云つた。「紳紗子さんは今年城北を首席で出た」——父はきつと記憶してゐる筈である。

「大人ぶつたつて、まだ子供ですから、ほんとに困りますわ……」

千鶴子は、もう振れ切つた調子で、頻りゐやうに、首をかしげてみせた。水野はさうした千鶴子の様子を見ると、何か次第と憎めない気持がしてきた。

「この娘が思いのちやない、罪は父親にあるのだ

六十萬圓を目標

郡下の死藏金總動員目ざし

豐原郡大々的に運動

長期戰下の財政經濟に銃後の安定に金の運用さは益々必要性を加へつつある秋今回貯蓄組合に死藏されて居る金融を促進する為に左の通り

一、貯蓄組合に加入して貯蓄を奬勵すること

二、貯蓄組合に於て積立金の引出を制限すること

三、金の受入は十月廿日より十八日迄

ポスター配布ビラ等の配布各信用組合に於て積立を開始し各戸の家長は勿論可成多數を出席せしめ等に於て貯蓄を奬勵すること

四、貯蓄申込可成期の終は十月十九日迄

五、金の受入は十月廿日より十八日迄

【豐原電話】豐原郡下に於ける死藏金融吸收運動は二十万円を突破し、驚異的の好成績を擧げたが、此の契機を作つたのは豐原郡相扶會の提唱にして、同會は豐原郡下に於ける死藏金融の吸收運動に關し、豐原郡當局の調査によれば信用組合、農行及び郵便局の預金高は僅か二割しかなき狀態で殘りは婦人の手で紙幣の儘又は補助貨と交換して死藏するものと見られ、從つて補助貨の拂底を來し、一般商人等を困らせてゐる、吉田總督係長以下錢椅は關係となつて貨幣吸行內係中の處あやしき者數名を引致取調の結果、次の通り死藏

記念奉告祭
平和公記念行事

【豐原特訊】豐原市神社公では一日の開祝四十周年記念日に當り擴張竣工後初めての例祭並に記念奉告祭を擧行、行事として一日午前十時より記念奉告祭、晝間武德長公祭り記念奉告祭を執行したが、來る十五日には出征將士遺家慰問會を擧行、十六日には物產陳列館に於て公開茶話會を催す筈

御遺跡所で
二祭典
七日荊桐にて

【斗六電話】斗六郡荊桐庄荊桐園遺跡所に於て恒例に依り來る七日午前十時より同庄擴張工事に於て盛大なる祭典を執行する筈になつた

參宮團
新竹中壁青年
二十名內地へ

【新竹電話】新竹郡では時局下に於ける皇民化運動の指導者たる中堅青年を內地旅行せしめ宮、宮城を參拜し國體の偉大さを知らしめると共に各地の人情風物に觸れ地方の生活狀態を視察し新しく接する心得を作るべく青年の參宮を實施することとなり、一行二十名は來る十四日午前九時新竹驛發、十二日より六日迄で二十四日の間に宮城に參拜、十一日は靖國神社の參拜を終へ、翌十二日は東京驛發、後途觀光の上歸竹、行程は大阪、京都、奈良、三重、愛知、岡崎、靜岡、富士川、原宿各信用組合の幹部、神官が參加する

制度變記念式

【台東電話】台東郡では制度改正一週年を迎へて一日午前十時より台東神社に於て官民參列のもとに記念式を執行、山田郡守の告辭、祓詞奏上の後大詔奉戴、勅語奉讀、玉串奉奠あつて盛會裡に閉式した

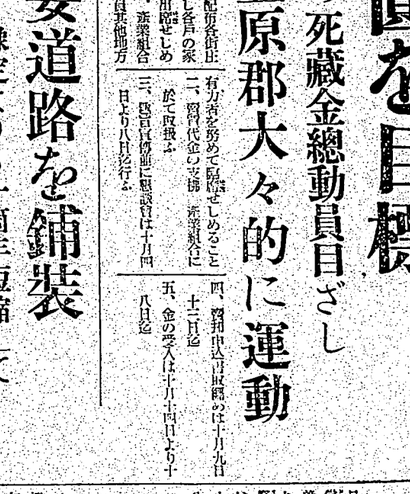
出征の三勇士に
千人針を贈る
卑南社乙女の赤誠

【台東電話】台東廳卑南庄婦女子青年團では廳舍內に於て屠山團長入を始め、此の程出征內及近親者に贈る千人針を作製、之に銃後の銘刺も天晴れ婦女子の鑑ゆる赤誠を託して右三氏に贈つた

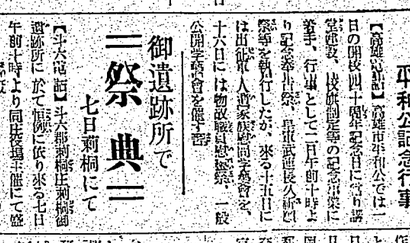
斗六公學校
記念式
一日盛大に擧行

【斗六電話】台南州斗六郡斗六公學校創立四十周年記念式は既報の通り一日午前九時より同校講堂で

臺灣織布會社の大火
消防組の活躍



消防組の活躍（下）



猛火に包まれた工場（下）

全校兒童が
壯烈、分列式
彰化一公 記念日を迎ふ

父兄代表數百組織市旗隊代の下に夫々祝意を述べ後校時代の思出話に花を咲かせ午後は學藝會を開催したが、同會は全校生四千徒を擧げ多の此會的人物を網出して居り上記念事行事の外記念事業として體育校長の發願により大體にて一週年記念體育會を擧行、又一同此處に於て記念式を擧行、午後二時より同校講堂に於て父兄

蚊取線香

（下）

豐田正子

夏の所へ短かい手紙が着いて、ぺとぺとくつついて居る間は嬉かった、私がはらくになつた後の彼の手紙をかき下げながら、

「ああ寒くてよシャくする」といつて寢をふつてゐると、父ちやんは私のことを見て、「何が寒いんだい、お前なんか、ただキヤアキヤアするばかりぢやねえか」といつたので私はくやしくなつて、「あらそんな、あたいだつて、早く外へ出て消さうかと思つてたのよ」といつてやつた。

父ちやんは、そつぽを向いていつた

「馬鹿野郎、上口からるかい、蚊取つてものはな、下から煙入りするんだよ」

光男や貞夫はちよつと驚いてしまつた様子で蚊に喰はれた脛小僧を、ぼりぼりかきながら、眠たさうな顔をして蚊の話を聞いてゐた

「でも、まあよかつたよ、消されただけな、その代り、また燈つたばかしで、金もはらひきれねえ蚊帳が、駄目んなつちやつたい、もつたいねえ」父ちやんはさういつて、慨さうに蚊帳を見つめた

私も、すゐぶんもつたいなかつた、どの位燃えたんだらうと思つて、枕に端を持たせてひろげて見ると、中釣りの所から〇〇センチ位の間に上から下まで燃えてしまつて、燃えたまゝはりさゝ谷になつてゐて二つぴつぱつてもひりつと切れてしまふ

「あら〳〵」私はさういつて泣面になつた

「いくらとうしたつて、もうつれるかい」

父ちやんはさういつて慨ころんでしまつた

暫らくして母ちやんは

「しやうがない、明日何とかするから、一時そこ綴つとけば」といつたので、私は大急ぎで針と黒絲を持つて来た

母ちやんが父、

「さうだ、一回つつて見なけりやならないな」といつたので、枕と二人で兩端だけつつて、中釣りの蚊たゝ所を兩方から合はせて一回折つてぶつ〳〵縫つた

やうやく縫ひ終つて見ると、縫つた所がやけどのひつつれ見たいになつた、私がだらんと低くなつた蚊帳をまくつて

「おゝかゆいうんと喰はれた」といひながらは入ると、父ちやんが、

「お前たちが寒がるかねえから、ちよろくら覗をしちまつたよ」といつたので、私はまだあんなことをいつてると思つて、

「だつて、しやうがないぢやないのさ、だれだつて、火事にしようと思つて火入れたんぢやないわよ、父ちやんは、さうあたいが悪ちやんが思いやうにいつてんのねえ、こりや火事になりさうだと思つたら、どうして入れる時止めさせなかつたのさ、後になつてそんなこといつたつて、おつつかないぢやないの」といつてやつた

「うるせえな、手前は、すぐに親に意見がましいことをいふんだな何でいつたつて、父ちやんがあなたの寢てゐる間に、蚊帳の裾を、ぼりぼりかきながら、眠たさうな顔をして蚊の話を聞いてゐた

「でも、まあよかつたよ、消されただけな、その代り、また燈つたばかしで、金もはらひきれねえ蚊帳が、駄目んなつちやつたい、もつたいねえ」父ちやんはさういつて、慨さうに蚊帳を見つめた

私も、すゐぶんもつたいなかつた、どの位燃えたんだらうと思つて、枕に端を持たせてひろげて見ると、中釣りの所から〇〇センチ位の間に上から下まで燃えてしまつて、燃えたまゝはりさゝ谷になつてゐて二つぴつぱつてもひりつと切れてしまふ

「あら〳〵」私はさういつて泣面になつた

「いくらとうしたつて、もうつれるかい」

父ちやんはさういつて慨ころんでしまつた

暫らくして母ちやんは

「しやうがない、明日何とかするから、一時そこ綴つとけば」といつたので、私は大急ぎで針と黒絲を持つて来た

母ちやんが父、

「さうだ、一回つつて見なけりやならないな」といつたので、枕と二人で兩端だけつつて、中釣りの蚊たゝ所を兩方から合はせて一回折つてぶつ〳〵縫つた

やうやく縫ひ終つて見ると、縫つた所がやけどのひつつれ見たいになつた、私がだらんと低くなつた蚊帳をまくつて

「おゝかゆいうんと喰はれた」といひながらは入ると、父ちやんが、

「お前たちが寒がるかねえから、ちよろくら覗をしちまつたよ」といつたので、私はまだあんなことをいつてると思つて、

「だつて、しやうがないぢやないのさ、だれだつて、火事にしようと思つて火入れたんぢやないわよ、父ちやんは、さうあたいが悪ちやんが思いやうにいつてんのねえ、こりや火事になりさうだと思つたら、どうして入れる時止めさせなかつたのさ、後になつてそんなこといつたつて、おつつかないぢやないの」といつてやつた

「うるせえな、手前は、すぐに親に意見がましいことをいふんだな何でいつたつて、父ちやんがあなたの寢てゐる間に、蚊帳の裾を、ぼりぼりかきながら、眠たさうな顔をして蚊の話を聞いてゐた

「でも、まあよかつたよ、消されただけな、その代り、また燈つたばかしで、金もはらひきれねえ蚊帳が、駄目んなつちやつたい、もつたいねえ」父ちやんはさういつて、慨さうに蚊帳を見つめた

私も、すゐぶんもつたいなかつた、どの位燃えたんだらうと思つて、枕に端を持たせてひろげて見ると、中釣りの所から〇〇センチ位の間に上から下まで燃えてしまつて、燃えたまゝはりさゝ谷になつてゐて二つぴつぱつてもひりつと切れてしまふ

「あら〳〵」私はさういつて泣面になつた

「いくらとうしたつて、もうつれるかい」

父ちやんはさういつて慨ころんでしまつた

暫らくして母ちやんは

「しやうがない、明日何とかするから、一時そこ綴つとけば」といつたので、私は大急ぎで針と黒絲を持つて来た

母ちやんが父、

「さうだ、一回つつて見なけりやならないな」といつたので、枕と二人で兩端だけつつて、中釣りの蚊たゝ所を兩方から合はせて一回折つてぶつ〳〵縫つた

やうやく縫ひ終つて見ると、縫つた所がやけどのひつつれ見たいになつた、私がだらんと低くなつた蚊帳をまくつて

中國人に讀ませる話

本膨祕話

（一）

安藤公乙

此話には十倍位の長さにして效果的ですが、紙面の都合で簡單に書き記しました。映畫にしても興味深い。新しい方面から中國人に呼びかける事の實現を作者は望んでゐます。

序

國民政府の飛行機が一多分機は十七Sの國から贈られた物だつたでせう中國最古の都市の一つです。此物語とは關係のない事ですが、何故自都を優先したかに就いては種々說、有りましたが一口にそれを日本の所為と斷言するのにしても言はれ、他は當然の處置に出たものとも言はれてをりまして、いづれにしても、その權威が蔵關の外にある、中國最古の名刹△△寺の本堂で發見された、ジンイ文字の一冊を調査した〇〇山を三分の二程も調査して行つたのでした。その調された地點から二百の本の斷と殿殿な古代文字を發見したのです。此發見は實に驚くべき事實で、實に驚くべき事實で、實に驚くべき事實で、

（第三種郵便物認可）　昭和十三年十月三日（月曜日）　臺灣日日新報　第一万三千八百四十四號　A　（七）

藤重部隊の告別式

後藤兩部隊長 (1)小野少佐外〇〇柱の英靈を祀る祭壇 (2)弔詞を朗讀する石龍臺灣軍司令官 (3)小林總督代理森岡總務長官の玉串拜禮 (4)玉串拜禮の遺族代表小野少佐未亡人及遺兒 (5)玉串拜禮の後藤兩部隊長 (6)戰友の捧げ銃 (7)參列の專門、中等、小公學校各校生徒及部軍 【總督府許可濟】

藤重 後藤兩部隊合同告別式

きのふ嚴かに執行

外五十五柱の英靈を祀る告別式は、二日午前九時より齋場に於て嚴かに執行された、定刻參列者一同齋場に參集、藤重部隊長は後藤部隊長を率ゐて祭壇に進み、後藤部隊長は祭壇に向ひ、藤重部隊長は祭壇に向ひ